

## 令和元年度 第2回大和市環境審議会 議事録

- I. 開催日時 令和2年1月29日(水) 午後2時～午後4時
- II. 開催場所 大和市役所本庁舎5階 全員協議会室
- III. 出席状況 委員 10人  
池田勝彦委員(会長)、高橋政勝委員(職務代理)、天野洋一委員、  
岡野利明委員、小川幸一委員、瀧本隆行委員、羽染 久委員、  
藤井敏昭委員、南真美委員、山口詠子委員  
事務局：環境農政部長ほか 18人
- IV. 傍聴人 なし
- V. 公開・非公開の状況  
公開 非公開 一部非公開
- VI. 審議又は検討の経過及び結果
- A. 会議次第
- 1 会長あいさつ
  - 2 議題
    - ① やまとの環境の年次報告
    - ② 清掃事業の概要の報告
    - ③ 農政課の事業
  - 3 その他
- B. 資料
- ・やまとの環境 概要版
  - ・やまとの環境 ー環境基本計画年次報告書ー令和元年度版
  - ・令和元年度版 清掃事業の概要
  - ・農政課主要事業
- (※ 資料は複数ページに渡るため掲載しておりませんが、市役所環境総務課で閲覧できますので、事前に連絡のうえお越してください。)
- C. 審議内容など
- ・環境農政部の事業報告について所管課より説明を行った後、意見・質疑を受けた。

## ① やまとの環境の年次報告

- 委員 やまとの環境概要版 P3 以降の目標に対する推移グラフに、縦軸の単位が入っていないので何の数値なのかわかりにくい。
- 事務局 わかりやすくなるよう検討する。
- 委員 市民・事業者アンケートの回答方法を 3 段階から 4 段階に変更したのはなぜか。
- 事務局 3 段階では「どちらともいえない」という回答が多くなり、回答割合に反映できないため、市で行っている他のアンケートも参考にし、平成 30 年度から「思う」「やや思う」「あまり思わない」「思わない」の 4 段階とした。
- 委員 P3 環境要素 1 の二酸化窒素濃度の数値は目標値を下回っているが、平成 21 年度からの 5 年間と、数値が大きく減り始めた平成 26 年度以降の算出方法は、同じなのか。
- 事務局 神奈川県が常時監視測定局を本市に設置しており、その 98% 値を反映させている。グラフでは大きく数値が減っているように見えるが、誤差程度である。
- 委員 一般環境の濃度を測定した数値ということか。
- 事務局 一般環境を測定している。
- 委員 傾向と要因がわかるようにコメントを入れていただければわかりやすい。
- 委員 測定箇所・場所は何か所に設置して何の数値を測定しているのか。
- 事務局 大和市役所敷地内の一般環境測定局と、深見台交差点に自動車排出測定局があり、測定項目は、二酸化窒素・浮遊粒子状物質・微小粒子状物質・光化学オキシダント・二酸化硫黄である。神奈川県が測定した数値を使用している。
- 委員 大和市が測定しているものは何か。
- 事務局 窒素酸化物の濃度の測定を市内 32 か所で行っている。その 32 か所は、幹線道路沿いや住宅地などを選定し測定している。
- 委員 P6 環境要素 4 美化の関連で、環境サポーター事業や犬ふん放置対策としての「イエローチョーク作戦」などは、どのようにすすめているのか。
- 事務局 イエローチョークを市役所・環境管理センター・保健福祉センター・市内各コミュニケーションセンターに置き、啓発を継続しており、環境サポーターは随時募集している。
- 委員 P10 環境要素 7 の 749 m<sup>2</sup> の用地買収とは、どのような場所で何か所くらいなのか。
- 事務局 都市計画法に基づいて複数の用地を買収している。
- 委員 P16 環境要素 12 の温室効果ガスの排出量を 2 年がかりで推計しているが、どのように推計しているのか。
- 事務局 家庭部門・産業部門などがあり、東京電力や国の数値を使用しているため 2 年遅れでの推計となっている。

- 委員 この数値は委託して出した数値か。
- 事務局 それぞれの事業者などから提出された数値を基に、大和市が計算している。
- 委員 アンケートから算出された数値は使用していないのか。
- 事務局 使用していない。
- 委員 P15 環境要素 11 の一人当たりの都市公園等面積の目標値の 6.8 m<sup>2</sup>は、どのような基準で設けたのか。
- 事務局 都市公園として整備している公園と、泉の森などの大規模緑地を含めた面積を、その年度の人口で割り戻したものを目標値としている。
- 委員 目標値は毎年かわるのか。
- 事務局 都市公園の整備を着実に進めているが、人口の増加に伴い数値が横ばいの状況となっている。保全契約等を継続し努力しているが、目標値が増えないというのが現状である。
- 委員 数値目標も必要だが、公園の質をあげていただきたい。
- 委員 数値の算出根拠になっている緑地には、厚木基地の緑は入っているのか。
- 事務局 市に管理権がないため、緑地として含めていない。
- 委員 数値目標としては掲げられていないが、ボランティア袋によるごみの回収量は把握しているか。
- 事務局 平成 30 年度の回収量は 33.89 t で、配布した袋の総数は 20,240 枚である。
- 委員 団体名などの詳細は解析しているのか。
- 事務局 袋を配布した団体などの数はわかるが、団体名等については手元に資料がない。
- 委員 P2 進捗状況一覧について、達成できている項目が低いように思われる。目標値に早く達成できるように努力し、市民に還元していただきたい。
- 委員 前回までの「○×△」の時よりも数値化されて見やすくなっていると思うが、達成すればそれでいいということではなく、それぞれの項目の傾向・要因を分析して、妥当な目標値を設定してほしい。
- 委員 P4 環境要素 2 の水について、目標値は達成しているとあるが、グラフの数値は毎年増減している。その要因は何か。
- 事務局 グラフの数値の増減に関する要因はつかめないが、全体の記載内容については、今後検討していきたい。

## ② 清掃事業の概要の報告

- 委員 近隣の地域では資源回収時の新聞の持ち去りが 90%以上ある。同じ車をよく見かけるので注意したいが、なかなか注意できない状況が続いている。新聞は有価物になるので持ち

去るのだと思うが、市で何か対応はしていないのか。

事務局 古紙の持ち去りは以前から課題になっており、市としては、パトロールによる巡回、張込みにより持ち去りを発見した時には搬入場所への尾行、また、GPSによる追跡などを実施し、注意喚起も行ってきた。現在は古紙の市場価格が低下傾向にあり、今後は持ち去りも少なくなるのではないかとと思われる。継続した対策を行っていく。

委員 環境管理センターの施設の対用年数は。

事務局 現在使用している焼却施設は、平成6年から使用しており25年を経過しているため、長寿命化を図るための工事を、令和2年度から4年間かけて実施する。

委員 小学校8校に生ごみ処理機を設置しているが、共同調理場に生ごみ処理機はないのか。

事務局 現時点では導入していない。大型処理機の導入を検討したが、設置する場所がないことなどから実現できていない。教育委員会との調整の中で、委託業者へ引き渡す手法なども検討しており引き続き検討していく。

委員 不法投棄68.28tの発生箇所別の数量と、公園ごみの回収量を教えてほしい。外国籍の方が公園のごみ籠に家庭ごみを捨てていくので声掛けをすると、ごみの出し方がわからないといわれる。外国籍の方へのごみの捨て方の周知が徹底されていないのではないのか。

事務局 公園ごみの回収は業者委託をしており排出量も把握しているので、別途回答したい。公園ごみについては、捨てにくくなるように、ごみ籠に蓋をしたり、ふれあいの森では外国籍の方へ外国語版のチラシを配布するなどの対応をしている。

事務局 「家庭ごみの分け方・出し方」(パンフレット)については、9か国語に翻訳したものを要望があった時に渡し、転入の際にはチラシを配布したり、ごみアプリが確認できるようにしている。また、環境事業推進員や自治会の方々にも、直接パンフレットを手渡ししてもらいなどの対応も行っており、引き続き今後も取り組んでいく。

委員 ごみの組成の湿分析と乾分析については、それぞれどれくらいの検体を分析したデータなのか。また、湿分析の平成29、30年度のビニール類が多くなっているのは、プラスチックを焼却していることが影響しているのか。

事務局 分析は年4回実施しており、湿分析は収集車から直接採取している。

委員 ランダムに年4回採取して、平均値を出しているという事なのか。

事務局 その通り。湿分析は主に家庭から出る生ごみを分析しているが、生ごみの水分量を減らすことにつなげることができれば、ごみの減量化にも効果があるものと認識している。乾分析は、ピットから採取している。

委員 事業系ごみは、分別されているのか。

事務局 事業系ごみとは生産にかかわるものではなく、事業所から排出される一般ごみのことで、社員のお弁当くずや紙ごみなどである。生産にかかわるものは、産業廃棄物扱いとなり、

事業所が直接、専門業者と契約し収集処分している。

委員 学校から出るごみは事業系ごみなのか。

事務局 学校から出されるごみは、事業系の一般廃棄物の扱いとなり、環境管理センターで処理している。

委員 環境教育として、子供にごみの分別を教えている時に「お母さんは分別しているのに、なぜ学校は大きいごみ箱に何でも入れていいの」と言われてしまった。例えば、外国籍の方の場合、お子さんが分別することを覚えれば、親へ伝えることができるし子供の意識も高まる。紙だけでも学校で分別を取り入れることができたらいいいのではないか。

事務局 事業系のごみを細かく分別することは難しいが、教育委員会には伝える。

委員 学校では、紙ごみは資源になると説明し、リサイクルしている。

### ③ 農政課の事業報告

委員 スマホのソフトを大和市で開発をしたと聞いたが、ソフトやロボット開発など、大和市にそのような技術者はいるのか。

事務局 ロボットなどを開発する技術者はいない。スマート農業の導入を含め、新たな農業施設などを導入する場合に関わる経費を補助する制度はあるので、活用していただきたい。

委員 援農サポーターの活動内容は、どのようなものか。

事務局 援農サポーターの活動は基本的には農家の手伝いである。例をあげると、畑の雑草取り・種まき・果樹の受粉・出荷の準備・直売所での手伝い等である。

委員 農家と援農サポーター、個々に連絡をとっているのか。

事務局 援農サポーターに登録した人を農家に紹介する。この制度も広く知られているので、直接連絡をとりあう人も増えている。

委員 最初のきっかけは市の紹介で、その後は直接ということか。

事務局 その通りである。

委員 安心・新鮮な大和の直売所を作ったらよいのではないか。

事務局 規模は大きくないがJAが関わっている直売所は市内に点在している。また、直売市として、朝市・昼市・夕市を開催しており、農家がそこで地場のものを販売している。

委員 直売所の設置は、街の活性化にも繋がると思う。

委員 農地は、市民にみどりを提供するための大きな役割を担っていると感じている。環境問題と農業問題は同じ土俵の中で進めていかなければならないと思うが、市はどのように考えるのか。

事務局 農地があることによって、大雨時の治水やヒートアイランド現象の低減等、農地の環境

保全に対する効果は十分認識しており、今後も農地の維持・保全に努力していきたい。また、農業者が農業を続けていくために農産物の販売に関して協力していきたい。

委員 生産緑地はかなり減少している。農地を緑として捉え、農地が減少しないように政策を進めていただきたい。

#### ○全体を通して

委員 やまとニュースのような、環境編を出してみてもどうか。

委員 大和市は健康都市を掲げている。環境も健康、人間自身も環境、健康都市として達成するには環境をよくする目標をもってすすめていただきたい。

<閉会>